

令和6(2024)年度 長野県赤穂高等学校 定時制課程 学校評価表		
学校運営計画		
学校教育目標	憲法及び教育基本法に基づき、特に次の事項に留意して教育実践にあたる。 1. 生徒の自主性を高め、個性を伸ばし、社会性を養い、実践力のある社会人の育成に努める。 2. 社会および自然に関する科学的思考力を高め、人文領域への関心を深めさせることで総合的学力の涵養を図る。 3. 体育および芸術教育を通して、情操教育を尊重し、心身の調和的発達を期する。 4. 課程・学課の性格を明確にし、相互の協力をはかるなかで、地域に根ざし、特色の発揮に努める。	
重点目標 (中・長期的目標)	働きながら学ぶことで、勤労学生としての自覚と高い理想を持ち、自己の向上を図る意志と態度を養うとともに、自他の生命と人権を尊重し、互いに協力しながら堅実な校風を樹立し、社会に貢献できる人材を育成する。	
今年度目標		具体的目標
(1)ICTの活用や双方向の学びづくりを心がけることで、生徒の意欲を喚起し、基礎学力の定着と自己表現力の涵養を目指し、生徒一人ひとりが進路目標の実現や就労に繋がることができるよう支援の充実を図っていく。		ICTの活用などにより、わかる授業を目指した授業改善を積極的に行う。 生徒の実態(学力差等)を考慮した学習指導を模索するなど、生徒に寄り添った学習支援と進路目標に対応する体制を整える。 積極的な学習態度や生活習慣を涵養し、基礎学力の充実に努め、確かな学力を身につけさせる。
(2)全教職員が生徒一人ひとりの個性や人権を大切にした教育を実践することで、生徒が思いやりや感謝の気持ちを持ち、他者と関わりながら自信をもって社会生活を送れるような人間性の育成を目指すとともに、心身ともに健康でいじめや体罰のない安全・安心な学校をつくる。		自分の人権も他人の人権を尊重するとともに、マナーを身に着け責任を持った分別ある行動ができるよう生活指導を進める。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、生徒が示す変化を見逃さないよう心がけ、いじめを積極的に認知するとともに、いじめの実態把握に努める。 健康と安全に注意を払い、学業と勤労が両立できる心身共に健全な身体をつくる。 生徒との相談体制をより充実させ、小さな事も見逃さない指導を目指す。
(3)学校が「定時制課程の果たすべき役割」や「そこに学ぶ生徒の成長の姿」を積極的に発信することで生徒・保護者の理解を一層深め、また地域の信頼と支援も得ながら、赤穂総合学科新校(仮称)においても定時制課程が大切な学びの場となるよう、学校、家庭、地域が連携して新たな学校づくりに取り組む。		家庭・地域・職場との連携を強化し、開かれた学校作りを目指す。 生徒が校外に出て地域の社会的・自然的資源から学ぶ機会を積極的に作る。 これまで培ってきた本校定時制の良さを継承した新校の定時制教育のあり方を考える。 新校の定時制教育のあり方について地域の方も交えて考える場面を作る。
領域	評価項目	評価の観点
教育課程	教育課程を検討する。	学習指導要領の趣旨を反映させ、本校教育目標の実現に即した教育課程となるよう検討することができたか。
教科指導	授業内容や方法の工夫・改善に努める。	ICT利用など生徒それぞれにあった学び方を工夫し、学び直しを含む基礎的・基本的内容を重視した指導を行うことで、基礎学力の確実な習得・基礎技術の習熟を支援することができたか。
	授業態度の改善を図る。	不必要な物を片付け学習環境を整えて授業に臨むことを習慣づけるなど、授業の中に生徒指導の機能を生かすことで、生徒の授業に積極的に参加する姿勢を育てることができたか。
生徒会・部活動	生徒会活動の活性化を図り、自主的・自立的行動ができるようにする。	ICT機器による個別学習も活用などにより、生徒の実態を理解し、それぞれに合った授業法を工夫することができたか。
	生徒会活動の精選と次世代への継承をする。	生徒会役員にリーダーとしての自覚と責任を持たせ、日常の学校生活や学校行事に意欲的に取り組みせ、生徒会活動を充実させることができたか。 実施可能な範囲で行事に全校が関わり、在校生が進級後に役員または最上級生として自覚と責任がもてるよう推進できたか。
生徒指導	望ましい基本的生活習慣を育成する。 問題行動を起こした生徒に対して、丁寧で継続的な指導を行う。	服装・態度・時間厳守・喫煙・薬物乱用防止等に関する生徒指導上の問題点に対して、学校保健委員会等と連携し学習を深めることなどにより、生徒の理解を深めることができたか。 生徒指導担当、学年を中心に生徒相談委員会と連携し、組織的・継続的に指導が行えたか。家庭や地域との連携を密にし、協力して指導にあたることができたか。

領域	評価項目	評価の観点
安全指導	四輪、原付、自転車の安全で正しい運転ができるよう指導する。	年1回の実技講習を実施し、交通法規の遵守を徹底することができたか。自転車においては保険加入とヘルメット着用を徹底することができたか。
	生徒が交通社会の一員としての自覚を持つよう、指導する。	年1回の交通安全教室を実施し、生徒の交通安全意識を高揚させることができたか。生徒がリスクある道路交通環境への適応するための資質・能力を育むことができたか。
		校内巡視指導を実施し、交通マナーの指導を行うことができたか。
進路指導	社会や経済状況を的確に分析・把握し、社会の実情に応じた適切な進路指導を行う。	充実した進路指導ができるように、指導体制を整備できたか。
	生徒の能力や特性を生かした進路指導の充実を努め、進路選択や進路決定を支援するために、正しい勤労観や職業観・学業観を育成する。	各種資料を提供し、進路目標を適切に決定できるように指導することができたか。
		特に就職が厳しくなることから担任を中心に、学年に応じた就業指導を実施する。普段から面談する時間を設けて生徒理解を深め、生徒の主体的な進路実現を支援することができたか。
		ハローワークや地元企業(上伊那中心に)の連携やの協力を得ながら積極的に求人開拓をすることができたか。
	生徒の進路希望に対応できる教育課程を設定した進路指導を行えたか。	
キャリア教育	勤労学生として生活を送る中で、将来設計と就業への移行を実現させ、社会的・職業的に自立した人間を育成する。	パート・アルバイト等への就業指導をLHR等を使い継続的に行えたか。
人権教育	教育活動の全分野で、人権教育の視点から生徒一人ひとりを大切にし、生徒の自尊感情を育て、自己実現に向けて自らの進路を切り拓く力を育成する	人生発見講座、生活体験発表会、講演会等を通じて、生徒が将来の自分の姿をイメージできるようなキャリア教育を行うことができたか。
		講習会の実施、ネットモラルについての学習、視聴覚教材などの活用により理解を深めることができたか。
健康指導	心身の健康を保持増進するために、健康診断・健康相談・保健指導を計画的に行うとともに、安全で衛生的な学校環境作りに努める。	健康観察、感染症予防教育を継続的に行い、自他の健康を守る力を育てることができたか。
		疾病の早期発見、早期治療を目指して実施する各種検診、健康相談を進んで受ける姿勢を養うことができたか。
	生徒が健康問題を生涯の課題として考えられるようにする。	生徒相談委員会と連携し、必要に応じて「心の相談」や「性の相談」を実施することができたか。
生徒相談	誰もが相談できる雰囲気をつくる。	googleフォームを利用するなど、相談しやすい体制を作ることができたか。
	悩みを持つ生徒からの相談体制を確立する。	口頭での申し出がうまくできない生徒には、生徒からの相談を待つのではなく、積極的に声がけをすることなどができたか。
		定期的に「生徒相談だより」を刊行することなどにより、学校の相談体制について生徒及び保護者に周知することができたか。
家庭・地域・職場との連携	学校開放などで積極的に本校をPRするとともに、PTA・同窓会・定時制振興会・地域との交流に努め、開かれた学校作りを目指す。新校の定時制のあり方について考えていく。	生活体験発表大会を通して、他校生徒や地域との交流を推進することができたか。
		PTA・学校職員によるレクリエーションなど交流を推進する。協力体制づくりを進めることができたか。
		定時制振興会総会を実施することにより、地域や保護者の定時制教育への理解が深めるとともに、新校の定時制教育のあり方について考える機会を作ることができたか。
いじめ防止	いじめを未然に防止する。	人権教育、情報モラル教育、教育相談週間、教員の校内研修等をバランスよく計画、実施することができたか。
	いじめを早期に発見する。	いじめを積極的に認知するために、定期的なアンケート調査や面談の実施等により、生徒が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つことができたか。
	いじめに早期に対応する。	いじめと疑われるものすべてに組織的に対応し、当該生徒や保護者の痛み・苦しみと向き合い、いじめをゆるさない学校づくりをすすめることができたか。
	ネット上でのいじめに対応する。	スマホ安全教室を実施することで、インターネットの安全な利用について生徒が自ら考え自ら行動することにつながったか。